「Let It Be ～あるがままに～」

2024 年 1 月 28 日

日本聖公会八戸聖ルカ教会
管理牧師　司祭　ステパノ　越山（こしやま）　哲也（てつや）

先日のある朝に長女がタブレットでビートルズの名曲「Let It Be」を聴いていました。学校で教えてもらったようでいい曲だよねと嬉しそうに話していました。私も年齢を重ねてきたのか、子どもたちが聴いているアーティストの名前と曲を覚えられずに世代間ギャップを感じていましたので久しぶりに共感できて私自身嬉しく思い、ビートルズは世代を超えて愛されているのだなと思いました。「Let It Be」は多くの方に愛される名曲で、ビートルズの晩年の楽曲です。歌詞の内容は、苦境にある主人公が聖母マリアから「あるがままにしなさい」という言葉を授かるというものです。調べてみますと、この曲の歌詞はポール・マッカートニーが見た「ある夢」がインスピレーションになっているそうです。その夢とは「ポールが14歳の時に亡くなった実母のメアリーが現れて言葉を告げる」というものです。歌詞に登場する“Mother Mary”は、ポールの母メアリーとも、聖母マリアとも受け取れます。
また、この曲はビートルズ解散が避けられない状況になった時のポールの辛い心境を反映したものとも言われているのはファンの間で誰もが知っているエピソードのようです。

改めて日本語の歌詞を味わってみたいと思います。

苦境に立たされている時
神聖なる母が現れ
格言を伝えてくれる
「あるがままになさい」と

暗闇の中にいる時
母が目の前に立ち
格言を伝えてくれる
「あるがままになさい」と

心に傷を負った人たちが
この世界で共に暮らす時
答えは見つかるだろう
あるがままに

離れ離れだとしても
再び巡り会うチャンスは残されている
そこに答えはあるのだろう
あるがままに

今能登半島地震によって故郷を、そして親元を離れて勉学を続ける中高生たち、戦争、災害で心に傷を負った人たちを覚える時にこの曲の歌詞が心に響きます。現状を受け止めることが出来ない、あるがままに生きるのが苦しい時があります。それでも私たちが「あるがままに」と現実と向き合うためには支えが必要です。親、友人、仲間といったいつも自分の存在を肯定し、見守ってくださる存在があってこそ「あるがままに」の生き方が出来ると思うのです。

教会暦は大斎節をまもなく迎えます。主イエス様が悪魔の誘惑に打ち勝てたのは神様に絶大な信頼を置いていたからです。主ご自身も自らの歩み道を歩む事に躊躇するのですが、それでも神を信頼して悪魔の誘惑を退けて、地上の生涯を最後まで生き抜かれました。

「あるがままに」とは自分が無意識に行っている思考、決めつけなどの自分の世界の中で生きるのではなく、私が出会う出来事はすべて神様のご計画の中にあることを知って生きていくことだと思います。「御心のままに」とも言い換えてもいいかもしれません。「主よ、あるがままに生きることが出来ますように共にいてください」